

# 平成28年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

## 伊豆エメラルドタウン簡易水道におけるPPP/PFI手法導入可能性調査 (調査対象箇所：伊豆の国市伊豆エメラルドタウン簡易水道)

【調査主体】伊豆の国市

### 調査対象事業の概要／施設の概要

#### 【調査対象事業の概要】

伊豆エメラルドタウンは、伊豆の国市と函南町の境界付近の山間地に別荘地として昭和40年代に開発された。総区画数6,129のうち建物が建築されているのは1,277区画で、別荘845戸、常住家屋432戸(733人)となっている。飲料水等の供給は、当初開発事業者が行っていたが、現在は住民組織による管理組合が維持管理を行っている。また、水道水源は当初井戸による自己水源を有していたが、水質と水量に問題があり、現在は函南町東部簡易水道からの給水を受けている。

#### 【施設の概要】

- ・給水状況：給水人口(733人)、計画1日最大給水量(1,186m<sup>3</sup>/日)
- ・施設等：受水槽(2箇所)、配水池(8箇所)
- ・ポンプ：送水ポンプ(5基)、給水加圧ポンプ(2基)
- ・管渠：送水管(7,215m)、配水管(59,034m)

### 検討経緯等

- H19.1：(株)大都、破産手続き開始
- H24.3：伊豆エメラルドタウン管理組合に水道施設の所有権移転
- H24.9：伊豆の国市(甲)と伊豆エメラルドタウン管理組合(乙)が管理に係る協定を締結
- H26～：伊豆の国市が静岡県、函南町、伊豆エメラルドタウン管理組合それぞれと協議中

#### 【既実施調査】

- H24：エメラルド地区基礎調査業務(施設等の現況調査)
- H25：エメラルド地区基本計画策定業務(施設の更新計画の策定)

### 事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

伊豆エメラルドタウンにおける水道事業は、当初、開発事業者の(株)大都が管理運営を行っていたが、(株)大都の倒産により、住民が伊豆エメラルドタウン管理組合を組織し、実質的な管理運営を行ってきた。一方、水道施設用地については、平成24年3月に、伊豆エメラルドタウン管理組合に所有権移転され、9月には管理組合から伊豆の国市に寄付された。水道施設は供用後小規模な漏水修繕程度しか行われおらず、今後老朽化した施設の大規模な更新が喫緊の課題となっていた。

しかし、市では市内数地区の民営を含む簡易水道の移管(水道事業への統合)を進めているが、施設の老朽化が進み事業環境が悪化傾向にある伊豆エメラルドタウンの水道運営に人的・資金等を投入することは困難な状況にある。一方で大規模地震等の災害が頻発する状況を踏まえ、住民からは当該地区の水道への市の関与と、安定した水の供給の要請が継続的になされている状況であった。

このような状況を踏まえ、伊豆エメラルドタウンの水道へのコンセッション方式の導入を検討することとなり、現況の資産状況や財務状況、今後の更新計画や人口動向等から将来の収支見込等を調査、事業成立の条件や事業範囲、適切なリスク分担等を検討し、事業化に向けた環境整備を図ることとした。

#### 【課題】

- ・水源の確保等安定した水供給体制の確保
- ・着実な老朽化対策の実施
- ・適切な使用料金の設定



#### イ：デューディリジェンス調査

- ・既存調査内容の精査
- ・施設更新計画の策定
- ・経営状況の調査
- ・使用料金(案)の設定



#### ロ：導入可能性調査

- ・コスト縮減の検討
- ・リスク分担(案)の整理
- ・概算事業費の整理
- ・SPCの検討
- ・VFM(案)の整理
- ・広域化の検討



#### 【目的】

コンセッション導入の環境整備

# 平成28年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

## 伊豆エメラルドタウン簡易水道におけるPPP/PFI手法導入可能性調査 (調査対象箇所：伊豆の国市伊豆エメラルドタウン簡易水道)

【調査主体】伊豆の国市

### 調査の流れ／調査内容

#### デューディリジェンス調査

- 対象事業の概要 : エメラルドタウンの基本情報、水道事業の課題の整理
- 経営状況の調査 : 事業実施体制、決算状況の調査
- 水需要の推計 : 2017～2026年の水需要の推計
- 水道施設の現状把握 : 水道施設の課題抽出・能力の検証
- 施設更新計画の作成 : 計画施設フロー、施設更新計画作成
- 管網検討調査 : 配水管網解析
- 使用料金(案)の検討 : 年間必要料金収入の検討

#### 導入可能性調査

- 想定される官民連携手法 : 各手法における委託可能な業務範囲の整理、水道分野における官民連携推進に対する取組(厚生労働省)
- 事業スキームの検討 : 官民連携手法導入方針、想定される事業スキームの検討
- リスク分担の整理 : リスク分担表の検討
- コスト削減の検討 : コスト削減、施設最適化方策の検討
- 概算事業費の整理 : 中長期の更新需要見通しの整理、短中期での更新計画の作成
- VFMシミュレーション : 前提条件の整理、VFMの算定
- 広域化の検討 : 函南町域を含めた事業スキームの検討
- 今後の課題及び提案 : 事業全体の課題、市の課題

### 今後の進め方

- H30年度初旬 : 水道料金値上げに向けた住民合意
- H31年度中 : 簡易水道事業認可申請、コンセッション導入準備(実施計画書作成(厚生労働省)、サウンディング等の詳細調査)
- H32年度中 : 事業者募集・選定、契約締結
- H32年度下期～H33年度上期 : コンセッション手法等による事業開始

### 事業化検討

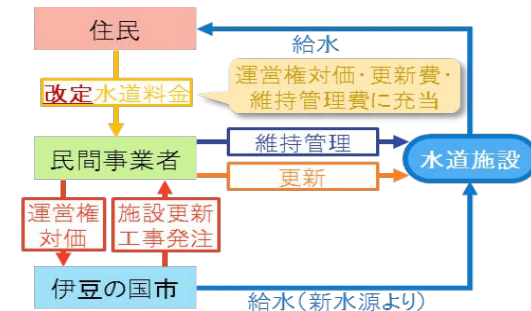
#### ①検討した事業手法

以下の方針の下、本調査においてはコンセッション手法の導入可能性について検討を行った。

- 方針① : 対象事業の業務を可能な限り広範に民間に委ねること
- 方針② : 計画的・合理的な施設更新整備が可能なスキームとすること
- 方針③ : 水道料金の値上げを可能な限り抑制するスキームとすること

#### ②定量評価(VFM等の財政効果の算出)

本調査において検討した事業スキームは右記の通りである。この事業スキームによって生じるVFMは0.54%と試算された。ただし、この数値は、上記方針③を前提に水道料金を可能限り抑制した場合を想定したものであることに留意する必要がある。



#### ③その他(定性評価等)

施設更新計画に基づき、現行体制よりも計画的・合理的な施設更新整備が実施されることから、対象事業の継続的な運営が見込まれる。また、併せて新水源からの給水を前提とした創設認可を取得することにより、長期にわたって安定的な給水が期待される。

#### ④検討結果

上記方針の全てを満足するという観点から、コンセッション手法が対象事業において最も有効な官民連携手法であるとの結論が導かれた。

### 想定される課題

- ①必要水準(本調査試算)への水道料金値上げに向けた住民の合意形成
- ②簡易水道事業認可取得、コンセッション事業者募集・選定等に向けた市側の執行体制の確保(人員面及び資金面等)
- ③伊豆エメラルドタウンが跨る函南町との水源や水道事業運営方法、体制等に係る調整